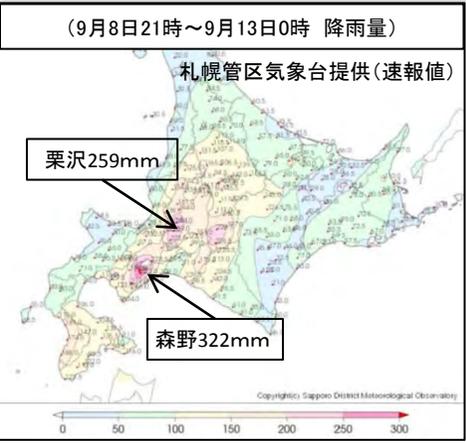


北海道開発局の出水対応（平成24年9月前線を伴った低気圧による降雨）

- 北海道付近に停滞した前線の影響により9月9日から12日かけ降り始めからの総雨量は各地で200mmを超え、白老町森野では322mm、岩見沢市栗沢では259mmに達した。この降雨により、北海道開発局が管理する河川は、石狩川水系の4河川（月寒川、厚別川、幾春別川、空知川）及び鷗川ではん濫注意水位を上回り、水田・畑が約40ha浸水。
- 北海道が管理する河川は、石狩川水系の2河川（望月寒川、利根別川）で計画高水位を上回るなど16河川でははん濫注意水位を上回った。9月12日早朝、岩見沢市は、3,672世帯、7,904人に避難勧告を発令。岩見沢市内で80haが浸水し、床上浸水等が発生。

岩見沢市等の自治体の災害対応を支援するため、北海道開発局は人員・災害対策用機械の派遣を実施

- 災害情報の共有・自治体からの応援要請の調整を行うため、リエゾン（災害対策現地連絡調整員）2名を岩見沢市に派遣。
- 災害対策用ヘリコプター「ほっかい」を出動し、気象庁、北海道庁と合同の被害状況調査を実施。
- 旭川市、美唄市からの要請により、排水ポンプ車を派遣。



桂沢ダムの防災操作と効果 ~ 幾春別川の水位を約1m低下 ~

- 平成24年9月9日からの雨により、石狩川水系桂沢ダム上流域では総雨量205mmを観測し、ダムへの最大流入量は約130m³/sの流入量を記録。
- 今回の防災操作において、ダムでは約870万m³(札幌ドーム約6個分)の水を貯留し、下流の河川へ流す水量を最大で110m³/s(約8割)低減。
- この結果、ダム下流の西川向水位観測所地点(岩見沢市新川橋付近)では、水位を約1m低下させ、避難判断水位の超過を抑えることが出来たと推定。

